

IoT国際シンポジウム2017

パネルディスカッション「今後の国際連携の方向性」資料

IoTプラットフォームに関する動向

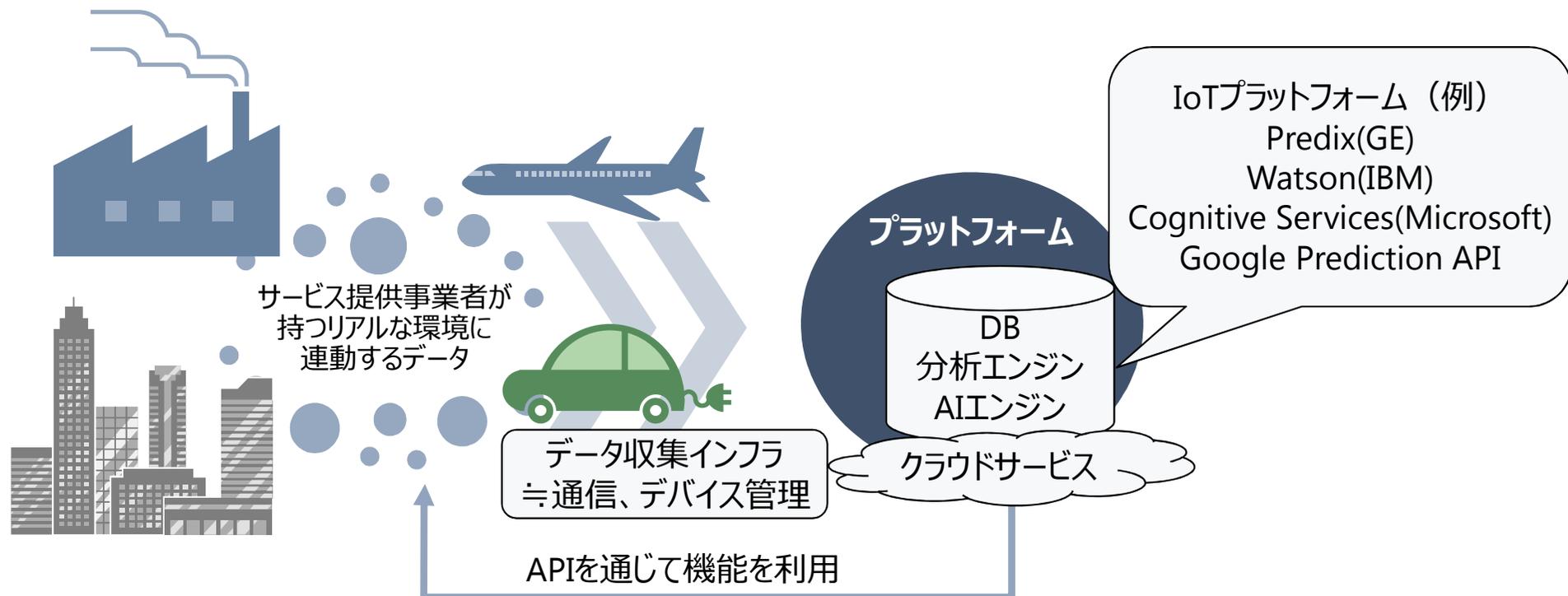
2017年3月29日

MRI 株式会社三菱総合研究所

社会ICT事業本部 主席研究員
西角 直樹 (nskd@mri.co.jp)

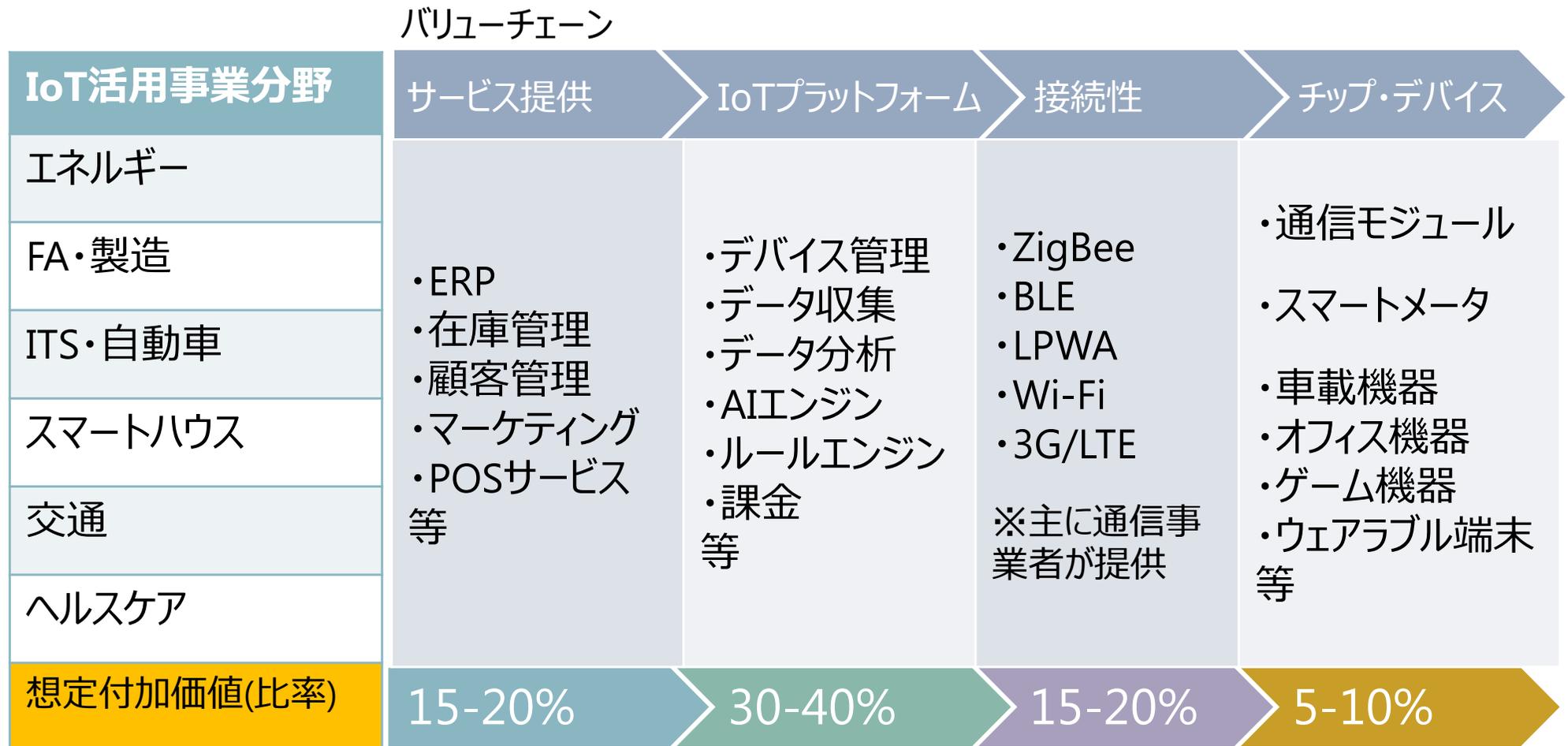
IoTプラットフォームの動向

- IoTによるデータを収集、分析、活用するための機能をAPIで提供するプラットフォームに基づくサービスが広がっている。
- APIを通じて提供されるプラットフォーム機能をサービス提供事業者が利用して発生するデータは、プラットフォームに取り込まれる。さらに集まったデータを分析、活用することでより優れた機能をプラットフォームを利用する企業に提供できるようになり、サービス提供事業者の囲い込みが進んでいる。
- 一方で、サービス提供事業者側の課題として、以下の点が指摘されている。
 - 各プラットフォーム間でインターフェースや機能の単位がバラバラで、連携できない。囲い込まれやすい。
 - サービス提供事業者の情報がプラットフォーム内でブラックボックス化されてしまい、どのように使われているかわからない。



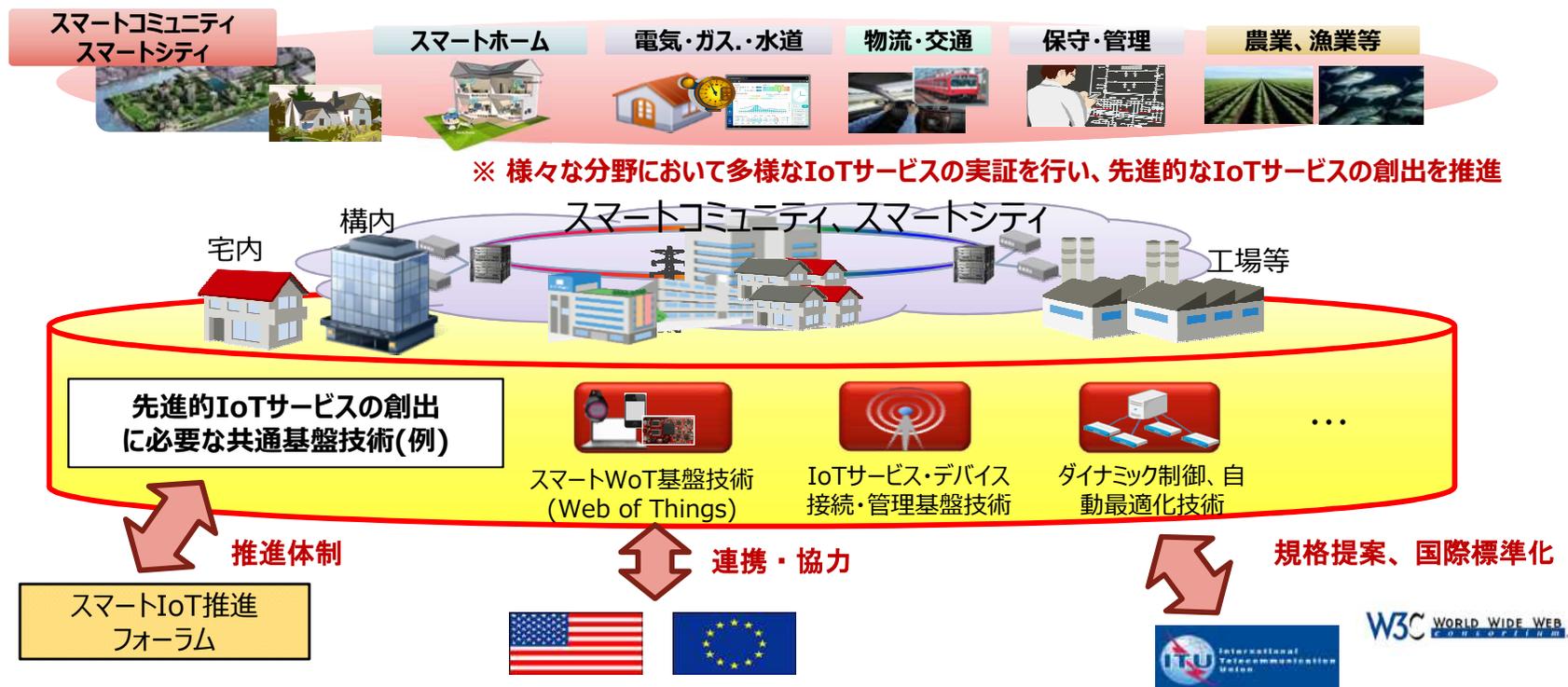
IoTバリューチェーン

- 様々な事業分野におけるサービス構築に対して、IoTを実現するバリューチェーンを下図に示した。
- バリューチェーンの中で、IoTサービスの構築に必要な機能を提供する「IoTプラットフォーム」の付加価値が大きくなると予想されている。



スマートシティにおけるIoTプラットフォーム活用

- 総務省では、スマートシティを実現するために必要な通信基盤技術 = IoTプラットフォームとして、研究開発を進めている。
 - 多様な先進的IoTサービスを創出するため、膨大な数のIoT機器を迅速かつ効率的に接続する技術、異なる無線規格のIoT機器や複数のサービスをまとめて効率的かつ安全にネットワークに接続・収容する技術等の共通基盤技術を確立することを目指している。
- ただし、国や自治体、業務分野によって異なるIoTプラットフォームが構築される可能性もあるため、各プラットフォームを構成する機能間の連携や相互接続などの仕組みが必要となる。



出所) 総務省